資料３－２

養父市地方創生のための
高校生アンケート調査

結果報告書

（案）

2015 年 8 月

㈱ふるさと回帰総合政策研究所

Ⅰ．アンケート調査の概要

1．高校生アンケート調査の目的

①調査の背景

全国的に人口減少社会を迎えた今日、政府は、地方が消滅することを防ぎながら活力を取り戻すことを目的として、国を挙げて「地方創生」への取組を開始した。

養父市においても、人口減少を食い止め「養父市創生」のため今後あらゆる手段を講じていくために、将来を担う高校生に「人口減少を食い止め、活力あるまちにするためにはどうしたらいいか」などについて意見や提案等を聞き、市政に生かしていくために高校生を対象にしたアンケート調査を実施する。

②アンケートの目的

人口減少を食い止め､活力あるまちにするため養父市に住むことや養父市の将来像などについて高校生の意向や意見を把握し、今後養父市が策定する総合戦略に資するための基礎的な資料収集を目的とする。

2．調査票の配布と回収

①対象者

養父市内高校（八鹿高校、農業高校、通信制高校）の 3 年生、343 人。

②実施時期

2015 年 7 月 7 日～17 日

③方法

各高校にて配布

郵送にて回収

④回収数、回収率

312 人　回収率（90.9%）

3. 回答者のプロフィール

①性別

回答者のうち男子生徒は 53%、女子生徒 47%であった。

問１　性別...（ＳＡ）

選択肢No.	カテゴリー名	サンプル数（ｎ）	構成比(%)
1	男性	166	53.2
2	女性	146	46.8
3	無回答	0	0.0
	全体	312	100.0

②家族構成

親と兄弟のいわゆる核家族世帯は 58%、6 割近くを占める。祖父母と一緒の三世代同居は 41%であった。

問１-1 同居している家族構成...（ＳＡ）

No.	カテゴリー名	n	%
1	親(と兄弟・姉妹他)	179	57.4
2	祖父母と親(と兄弟・姉妹他)	126	40.4
3	単身	1	0.3
4	その他	5	1.6
5	無回答	1	0.3
	全体	312	100.0

③居住地域

養父市内に住むのは 51%、市外は 49%である。

問１-2 居住地域...（ＳＡ）

No.	カテゴリー名	n	%
1	養父市内	157	50.3
2	養父市以外	149	47.8
3	無回答	6	1.9
	全体	312	100.0

養父市以外

市/町の名	件数	市/町の名	件数
朝来市	78	市川町	1
豊岡市	35	出石町	1
香美町	11	新温泉町	1
富岡市	9	神戸市	1
和田山町	6	但東町	1
神河町	2	与謝野市	1
		総計	147

※無回答 2 件

Ⅱ. アンケート調査の結果

1. 高校生活について

①高校生活の充実度

高校生活は「まあまあ充実している」が 48%、「とても充実している」が 21%で、合わせて 7 割が充実している。「ふつう」が 26%なので、95%が高校生活に充実感をもっているとみることができる。

問２　高校生活の充実度...（ＳＡ）

No.	カテゴリー名	n	%
1	とても充実している	66	21.2
2	まあまあ充実している	150	48.1
3	ふつう	81	26.0
4	あまり充実していない	11	3.5
5	充実していない	3	1.0
6	無回答	1	0.3
	全体	312	100.0

②何をしているときが楽しいか

「友だちと遊んでいるとき」が 66%と最も多く、次いで「本を読む、音楽を聴く、テレビを見るなどをしているとき」が 53%、「スマホ・ゲームなどをしているとき」39%と続く。「ショッピングをしているとき」「アウトドア・スポーツなどをしているとき」などは 5 人に 1 人が回答してくれた。

問３　何をしているときが楽しいか...（ＭＡ）　（○は３つまで）

No.	カテゴリー名	n	%
1	勉強しているとき	14	4.5
2	部活をしているとき	35	11.2
3	本を読む、音楽を聴く、テレビを見るなどをしているとき	166	53.2
4	スマホ・ゲームなどをしているとき	123	39.4
5	アウトドア・スポーツなどをしているとき	58	18.6
6	友だちと遊んでいるとき	205	65.7
7	家族と一緒に過ごしているとき	43	13.8
8	ショッピングをしているとき	63	20.2
9	習い事をしているとき	10	3.2
10	家業の手伝いやアルバイトなど働いているとき	10	3.2
11	ボランティアなど地域活動をしているとき	5	1.6
12	その他	13	4.2
13	無回答	1	0.3
	全体	312	100.0

問3　その他（具体的に）

記述内容	件数
一人でいるとき	3
食事をしているとき	2
寝ているとき	2
家でゴロゴロ	1
イベント（アイドルなどの）に行ってるとき	1
自分が好きなことをしているとき	1
悪いことを考えているとき	1
合　計	11

この楽しい時の持ち方と高校生活の充実度の関係をみると、高校生活が「とても充実している」人たちは、「友だちと遊んでいるとき」が 85%と極めて高い支持を示している。さらに「ショッピング」24%、「部活」18%、「勉強」11%などが高い。

一方、高校生活が「とても充実している」人たちは、「充実していない」人たちにくらべ、「本を読む・音楽聴く・テレビ見る」や「スマホ・ゲーム」などにあまり楽しさを見出している人は少ない。

			問３ 何をしているときが楽しいか										
		合計	勉強しているとき	部活をしているとき	本を読む、音楽を聴く、テレビを見るなどをしているとき	スマホ・ゲームなどをしているとき	アウトドア・スポーツなどをしているとき	友だちと遊んでいるとき	家族と一緒に過ごしているとき	ショッピングをしているとき	習い事をしているとき	家業の手伝いやアルバイトなど働いているとき	ボランティアなど地域活動をしているとき
問２ 高校生活の充実度	合計	100.0	4.5	11.3	53.4	39.2	18.6	65.6	13.8	19.9	3.2	3.2	1.6
	とても充実している	100.0	10.6	18.2	36.4	22.7	12.1	84.8	13.6	24.2	3.0	4.5	3.0
	まあまあ充実している	100.0	2.0	13.3	58.0	39.3	20.7	66.0	11.3	20.0	2.0	3.3	0.7
	ふつう	100.0	4.9	2.5	56.8	50.6	19.8	51.9	19.8	17.3	3.7	2.5	2.5
	あまり充実していない	100.0	0.0	9.1	63.6	45.5	27.3	45.5	9.1	18.2	9.1	0.0	0.0
	充実していない	100.0	0.0	0.0	66.7	66.7	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
		注）無回答を除く											

③地域に対する愛着

「愛着がある」と答えたのは 55%であった。「愛着はない」11%、「どちらともいえない」34%である。

問４ 地域に対する愛着...（ＳＡ）

No.	カテゴリー名	n	%
1	愛着がある	172	55.1
2	愛着はない	34	10.9
3	どちらともいえない	105	33.7
4	無回答	1	0.3
	全体	312	100.0

④愛着が生まれる要因

愛着が生まれる要因は「自分が生まれ育ったところだから」72%、「家族や気心の知れた仲間がいるから」43%と多く、次いで「よく遊んだ場所があるから」28%、「地域の人々が温かいから」24%と続く。

問４-1 愛着が生まれる要因...（ＭＡ）（○は３つまで）

No.	カテゴリー名	n	%
1	自分が生まれ育ったところだから	226	72.4
2	みんなにお勧めできる自然や観光資源などがあるから	38	12.2
3	自慢できる文化的環境があるから	22	7.1
4	地域の人々が温かいから	74	23.7
5	家族や気心の知れた仲間がいるから	135	43.3
6	よく遊んだ場所があるから	88	28.2
7	地域の将来の行く末が気になるから	11	3.5
8	その他	7	2.2
9	無回答	25	8.0
	全体	312	100.0

問4-1 その他（具体的に）

記述内容	件数
よくしゃべる（人がすくないがしゃべる）	1
自然が多く環境状態が良いから	1
都会より静かで落ち着きがあるから	1
知っている場所があるから	1
この環境に満足しているから	1
要因はない	1
合 計	6

愛着が生まれる理由について、21%の高校生活が「とても充実している」人では愛着度が83%に上り、愛着度平均の 55%をはるかにこえる状況が生まれている。

高校生活、ひいては小中学校の生活の充実度が、地域への愛着を生むひとつの要因だと考えられる。

そして高校生活の充実度は、先に分析したように、「友だちと遊んでいるとき」の楽しさのようなものがひとつの要因になる。

			問４　地域に対する愛着				
			合計	愛着がある	愛着はない	どちらともいえない	無回答
	合計	100.0	100.0	55.1	10.9	33.7	0.3
問２ 高校生活の充実度	とても充実している	21.2	100.0	83.3	4.5	12.1	0.0
	まあまあ充実している	48.1	100.0	57.3	10.0	32.7	0.0
	ふつう	26.0	100.0	30.9	16.0	51.9	1.2
	あまり充実していない	3.5	100.0	45.5	9.1	45.5	0.0
	充実していない	1.0	100.0	0.0	66.7	33.3	0.0
	無回答	0.3					

2. 今後の進路について

①今後の進路予定

「進学」が 76%を占める。

問５　今後の進路予定...（ＳＡ）

No.	カテゴリー名	n	%
1	進学するつもりである	237	76.0
2	就職するつもりである	64	20.5
3	わからない	11	3.5
4	無回答	0	0.0
	全体	312	100.0

男子生徒は 74%、女子生徒は 79%と、女子の進学希望が高いのが特徴である。

			問１　性別	
		合計	男性	女性
問５　今後の進路予定	合計	100.0	100.0	100.0
	進学するつもりである	76.0	73.5	78.8
	就職するつもりである	20.5	21.1	19.9
	わからない	3.5	5.4	1.4

②将来のＵターン

進学したり就職したりして、この地域から外に出た高校生は、将来ここに戻ってくる意志があるのだろうか。

将来のＵターンについて「はい」と肯定的に答えたのは 30%である。一方「いいえ」は 27%に及んでいる。

また、将来のＵターンについて「わからない」と答えたのは 42%である。

問６　高校卒業後、将来Ｕターンしたいか...（ＳＡ）

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	95	30.4
2	いいえ	85	27.2
3	わからない	131	42.0
4	無回答	1	0.3
	全体	312	100.0

これを男女別にみると、将来のＵターンに「はい」と答えたのは、男子生徒では 28%、女子生徒では 33%とやや女子生徒のほうが多い。

			問１　性別	
		合計	男性	女性
問６　高校卒業後、将来Ｕターンしたいか	合計	100.0	100.0	100.0
	はい	30.4	28.3	32.9
	いいえ	27.2	25.9	28.8
	わからない	42.0	45.8	37.7
	無回答	0.3	0.0	0.6

「わからない」と答えた人がどのような選択を将来するか分からないが、仮に「はい」「いいえ」の意志を持っている人と同じ割合になるとすれば、この地域へのＵターン率は 30～50%になるものと推定される。

Ｕターンを増やすために、多くの手立てが必要になるが、高校生のアンケート結果から言えることは、“地域への愛着があるほどＵターンは高まる可能性がある”ということである。

Ｕターンの意志を持つ人は、先にみたように平均 30%であるが、地域に「愛着がある」人たちはこれが 41%へと高まる。

地域への愛着が持てるような環境づくりが必要なゆえんである。

			問４　地域に対する愛着			
		合計	愛着がある	愛着はない	どちらともいえない	無回答
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
問６ 将来のＵターン	はい	30.4	41.3	11.8	19.0	0.0
	いいえ	27.2	15.1	64.7	34.3	100.0
	わからない	42.0	43.0	23.5	46.7	0.0

③Ｕターンしたい理由

Ｕターンしたい理由は「生まれ育った地域が好きだから」66%、「友人がいるから」34%、「今の生活環境に満足だから」33%となっている。

問６-1 Ｕターンしたい理由...（ＭＡ）（○は３つまで）

No.	カテゴリー名	n	%
1	生まれ育った地域が好きだから	63	66.3
2	家族と暮らしたいから	19	20.0
3	友人がいるから	32	33.7
4	働きたい職場があるから	14	14.7
5	家業を継がなければならないから	3	3.2
6	今の生活環境に満足だから	31	32.6
7	都市部で生活することが不安だから	19	20.0
8	その他	6	6.3
9	無回答	0	0.0
	全体	95	100.0

問6-1 その他（具体的に）

記述内容	件数
親が心配だから	1
家の畑を継ぎたいから	1
この地域を変えたいから	1
都会が好きじゃないから	1
地域に役立ちたいから	1
合　計	5

④Ｕターンしたくない理由

一方、Ｕターンしたくない理由は「働きたい職場がないから」57%が多く、次いで「都市部での生活にあこがれているから」が 45%となっている。また、「この地域があまり好きでないから」も 21%、「世界で羽ばたきたいから」も 15%ある。

問６-2 Ｕターンしたくない理由...（ＭＡ）（○は３つまで）

No.	カテゴリー名	n	%
1	この地域があまり好きでないから	18	21.2
2	働きたい職場がないから	48	56.5
3	家は兄弟姉妹が継ぐから	5	5.9
4	世界で羽ばたきたいから	13	15.3
5	都市部での生活にあこがれているから	38	44.7
6	その他	6	7.1
7	無回答	0	0.0
	全体	85	100.0

問6-2 その他（具体的に）

記述内容	件数
めんどくさいから人間性がよくない	1
田舎だから	1
都会は店や交通の便がよく住みやすいから	1
この地域で働いても、地味な人生になると思うから	1
この地域に引っ越してきたばかりなので、愛着が無いから	1
合　計	5

⑤Ｕターン者を増やすための条件

Ｕターン者をふすための条件としては「働く場が選べる環境がある」61％で群を抜いており、次いで「ショッピング・娯楽施設が充実している」44％があげられる。

問６-3 Ｕターン者を増やすための条件（ＭＡ）（○は３つまで）

No.	カテゴリー名	n	%
1	働く場が選べる環境がある	189	60.6
2	起業しやすい環境がある	35	11.2
3	市内企業がＵターン採用に積極的である	41	13.1
4	ＩＴ（情報通信）を活用し地域で仕事ができる環境がある	36	11.5
5	ショッピング・娯楽施設等が充実している	138	44.2
6	医療機関や子育て環境が充実している	79	25.3
7	教育環境が充実している	39	12.5
8	住む場所がある	54	17.3
9	友人が多くいる	22	7.1
10	その他	9	2.9
11	無回答	56	17.9
	全体	312	100.0

問6-3 その他（具体的に）

記述内容	件数
交通機関の充実(本数・値段など)	3
都会にする	1
就職できるワクが増えれば	1
時給をあげたら	1
地域の風習に縛られたくない	1
増やす利益はあるのでしょうか	1
わからない	1
合　計	9

3. 結婚や将来の家族について

①結婚の時期

いつごろ結婚したいかを聞いてみると、8 割の人は結婚する意志をもっており、そのほとんどが 20 歳代に結婚したいと考えている。男女別にみると、女性の方がやや早く結婚したいと思っている傾向がみられる。

平均的な結婚の年齢は、男性 25.3 歳、女性 24.6 歳である。

			問１　性別		同左　結婚意思者		
		合計	男性	女性	男性	女性	想定する結婚年齢
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
問７　いつ頃結婚はしたいか	20歳ぐらいまでには結婚したい	2.6	3.0	2.1	4.1	2.4	19.0歳
	25歳ぐらいまでには結婚したい	36.5	28.3	45.9	38.8	54.4	22.5歳
	30歳ぐらいまでには結婚したい	38.1	40.4	35.6	55.4	42.3	27.5歳
	結婚は30歳以降でもいい	1.0	1.2	0.7	1.7	0.8	35.0歳
	結婚はしないと思う	7.1	4.8	9.6	(平均年齢)	(平均年齢)	
	わからない	14.4	22.3	5.5	25.3	24.6	
	無回答	0.3	0	0.6			

②希望する子ども人数

希望する子どもの人数は、「2 人」が 49%、「3 人」が 18%であった。女性の方が希望する子ども数がやや多いようである。

子ども人数に答えた人の平均的子ども数は 2.1 人である。

				男性	女性
		n	%	%	%
問７－１ 子どもは何人ほしいか	合計	312	100.0	100.0	100.0
	０人	19	6.1	4.8	7.5
	１人	12	3.8	4.8	2.7
	２人	153	49.0	42.8	56.2
	３人	57	18.3	17.5	19.2
	４人以上	3	1.0	0.0	2.1
	わからない	65	20.8	30.1	10.3
	無回答	3	1.0	0.0	2.1

4. 地域の将来像について

①将来どういうまちになって欲しいか

「豊かな自然を生かせるまち」がトップで 58%、次いで「子どもを安心して産み育てることのできるまち」が 55%であった。以下、「医療・福祉が充実したまち」39%、「観光が活発なまち」24%とつづく。女性の場合は「子どもを安心して産み育てることのできるまち」や「医療・福祉が充実したまち」の比率がやや高い。

問８　地域は将来どういうまちになってほしいか(ＭＡ)（○は３つまで）

No.	カテゴリー名	n	%
1	豊かな自然を生かせるまち	182	58.3
2	農業や林業の活発なまち	54	17.3
3	企業や工場などがたくさんあるまち	30	9.6
4	観光が活発なまち	76	24.4
5	自分で起業できるまち	12	3.8
6	医療・福祉が充実したまち	120	38.5
7	子どもを安心して産み育てることのできるまち	173	55.4
8	多くの人が移住してくるまち	48	15.4
9	行政サービスが充実したまち	45	14.4
10	その他	9	2.9
11	無回答	3	1.0
	全体	312	100.0

問8　その他(具体的に)

記述内容	件数
都会、日本の首都。	1
ショッピング街が豊富	1
子供たちのための地域づくり	1
ドラえもんの道具があるまち	1
世界とつながれるまち。	1
子供の遊べる場所がたくさんあるまち	1
交通の便が良い	1
人がいいまち	1
わからない	1
合　計	9

②地域の人口減少について

「現在の人口が今以上に減らないようにするべき」が 46%、「人口をもっと増やすようにするべき」が 25%、一方「人口が減ってもやむをえない」は 15%であった。

高校生の場合、人口減少に歯止めをかけるべきとする積極的な意見が多い。

問９　地域の人口減少について...(ＳＡ)

No.	カテゴリー名	n	%
1	人口をもっと増やすようにするべき	77	24.7
2	現在の人口が今以上に減らないようにするべき	142	45.5
3	人口が減ってもやむをえない	48	15.4
4	人口のことは考えていない	14	4.5
5	わからない	30	9.6
6	無回答	1	0.3
	全体	312	100.0

5. “移住者の受入れ”や“産業の育成”について

①移住者を受入れることについて

移住者の受入れについては「地域にあう人を対象にして受け入れたらいい」46%、「どんどん増やしたらいい」42%で、高校生たちは受入れに積極的である。

問10 養父市を活性化のために移住者や二地域居住者を増やす考え方について...（ＳＡ）

No.	カテゴリー名	n	%
1	どんどん増やしたらいい	130	41.7
2	地域にあう人を対象にして受け入れたらいい	144	46.2
3	移住者を受け入れることには反対である	1	0.3
4	わからない	35	11.2
5	無回答	2	0.6
	全体	312	100.0

②移住者を増やすための施策

移住者を増やすための施策として、「仕事や住まいの移住確保を支援する」63%、「地域全体の受け入れに対する理解が深まるよう啓発する」43%で、移住者への支援と同時に受入れ地域の体制づくりをすべきと考えている。

また、「モデル地区を決めて移住しやすい環境をつくる」38%、「外国人も受け入れられやすい環境をつくる」31%にみられるように、外国人も含めて受入れモデル地区を作ったらどうかという意見も多い。

問10-1 養父市が移住者や二地域居住者を増やすための施策...（ＭＡ）（○は３つまで）

No.	カテゴリー名	n	%
1	モデル地区を決めて移住しやすい環境をつくる	118	37.8
2	仕事や住まいの移住確保を支援する	196	62.8
3	地域全体の受け入れに対する理解が深まるよう啓発する	134	42.9
4	外国人も受け入れられやすい環境をつくる	96	30.8
5	その他	4	1.3
6	何も支援する必要はない	15	4.8
7	無回答	5	1.6
	全体	312	100.0

問10-1 その他（具体的に）

記述内容	件数
家を大きくする	1
買い物をしやすくするためにスーパーをふやす	1
閉鎖的な人間関係をどうにかすること	1
新しい事に気をとられすぎないように、大切にすべきものを大切にしていく	1
合 計	4

③仕事の機会を充実させるための施策

「企業誘致」が 50%と最も多い意見である。そのほか「農林業での就業」36%、「観光業に力を入れる」33%の意見がみられるとともに、「起業できる環境づくり」も 32%と多く、さらに「既存企業が拡大できるよう支援すべき」も 30%の意見がある。

問11 仕事の機会を充実させるために必要な施策
...（MA）（○は３つまで）

No.	カテゴリー名	n	%
1	外部から企業や工場をもっと誘致するべき	155	49.7
2	起業できる環境を整えるべき	100	32.1
3	農林業で就業できる環境を整えるべき	112	35.9
4	観光業に力を入れるべき	103	33.0
5	既存企業が拡大できるよう支援するべき	94	30.1
6	その他	9	2.9
7	無回答	5	1.6
	全体	312	100.0

問11 その他（具体的に）

記述内容	件数
フリーターを減らす	1
廃校などをもっと利用するべき	1
自然を壊さないよう工場などないほうがいい	1
ショッピングモール	1
きっすぎずにすべき	1
わからない	1
合 計	6

④起業について

実際に起業したいかについてみると、「いずれこの地域で起業したい」6%、「いずれ地域外で起業したい」5%と、合わせて 1 割の高校生が起業の希望をもっている。これに「起業をかんがえてみたい」12%を合わせると 2 割が関心をもっている。

問11-1 「起業」について...（ＳＡ）

No.	カテゴリー名	n	%
1	いずれこの地域で起業したい	20	6.4
2	いずれ地域外で起業したい	17	5.4
3	起業を考えてみたい	38	12.2
4	起業は考えていない	161	51.6
5	わからない	72	23.1
6	無回答	4	1.3
	全体	312	100.0

起業とＵターンの意志の関係をみると、Ｕターンを希望する高校生（全体の 30%）では、「いずれこの地域で起業したい」とするのは 15%に上る。したがって、Ｕターンしやすい環境を整えるためにも、“起業しやすい環境”をつくっておくことが必要になる。

			問６ 将来Ｕターンしたいか		
		合計	はい	いいえ	わからない
問11-1「起業」について	合計	100.0	100.0	100.0	100.0
	いずれこの地域で起業したい	6.5	14.7	1.2	3.8
	いずれ地域外で起業したい	5.5	3.2	8.5	5.3
	起業を考えてみたい	12.3	16.8	7.3	12.2
	起業は考えていない	52.3	45.3	64.6	49.6
	わからない	23.4	20.0	18.3	29.0

注）無回答を除く

⑤農業に対する関心

「専業としての農業」5%、「6 次産業」5%、合わせて 1 割が農業に積極的な関心を示している。これに「機会があれば農業に関わってみたい」41%を加えると高校生の半分は農業に関わる意識をもっている。

問11-2 その他（具体的に）

記述内容	件数
兼業農家でいい	1
牧場を作る	1
環境問題	1
退職後に趣味程度でやりたい	1
子供たちに経験させてあげるもの 食育など教育の中に取り入れるもの	1
実家の農業を手伝うぐらいで関わりたい	1
家族の副業として関わっている	1
祖父母が農業をやっているので	1
少し作るぐらいでいい	1
合 計	9

問11-2 農業に対する関心...（ＳＡ）

No.	カテゴリー名	n	%
1	機会があれば農業に関わってみたい	127	40.7
2	専業として積極的に農業に取り組みたい	16	5.1
3	6次産業をやってみたい	15	4.8
4	その他	9	2.9
5	農業には関心がない	136	43.6
6	無回答	9	2.9

そのうちUターン希望者についてみると、「専業農業」8%、「6 次産業」5%とわずかに高まり、「機会があれば農業に関わってみたい」が 58%と飛躍的に拡大する。こうしたことからも、Ｕターン者が市民として農業にかかわる機会を用意しておくべきと考える。

		合計	問６ 将来Ｕターンしたいか		
			はい	いいえ	わからない
問11-2 農業に対する関心	合計	100.0	100.0	100.0	100.0
	機会があれば農業に関わってみたい	41.9	57.6	26.8	40.3
	専業として積極的に農業に取り組みたい	5.3	7.6	1.2	6.2
	6次産業をやってみたい	5.0	5.4	6.1	3.9
	その他	3.0	4.3	2.4	2.3
	農業には関心がない	44.9	25.0	63.4	47.3

注）無回答を除く

6. 地域が活力を持つためのアイデア

①全国的に注目される拠点

この地域が全国的に注目されるようになるための“拠点”づくりとして、何がふさわしいか夢を聞いた。

「都市部の人が豊かな自然環境で精神的ストレスを解消する拠点をつくる」48%がトップにあがった。

次いで「農産物の海外への輸出が盛んな拠点をつくる」31%、「企業の支社が活動できる拠点をつくる」24%である。

問12 全国的に注目される“拠点”を作るのに考えられる夢
...（MA）（○は３つまで）

No.	カテゴリー名	n	%
1	農産物の海外への輸出が盛んな拠点をつくる	97	31.1
2	外国人観光客が集まり外国人の移住が進む拠点をつくる	61	19.6
3	ＩＴや投資環境などを整備し、起業家が集まる拠点をつくる	35	11.2
4	研修等により専門分野を極めることができる拠点をつくる	42	13.5
5	地域を元気にするリーダーを養成する拠点をつくる	53	17.0
6	世界に羽ばたける芸術家の集まる拠点をつくる	27	8.7
7	企業の支社が活動できる拠点をつくる	75	24.0
8	遠隔医療を発展させるための拠点をつくる	34	10.9
9	都市部の人が豊かな自然環境で精神的ストレスを解消する拠点をつくる	150	48.1
10	市外の高齢者が介護付きで移住できる拠点をつくる	57	18.3
11	その他	9	2.9
12	無回答	11	3.5
	全体	312	100.0

問12 その他（具体的に）

記述内容	件数
学園都市を作る	1
日本の首都を東京から八鹿にする	1
山が多いのでそれを利用したミッドタウンをつくる	1
田舎の良さである横のつながり、縦のつながりを活かして安心して子育て等ができる拠点	1
子供を大切にする地域体勢を整え、若者の心に応えられる拠点をつくる（都市化を目指すものではない）	1
医療人や介護職の人の態度を直すべきだと思う	1
わからない	1
合 計	7

②但馬地域が知名度をあげるアイデア

「特産品をブランド化する」32%が最も多かった。具体例として、八鹿豚、蛇紋米、但馬牛、山椒、そば、しょうちゅう、やっぷーなどが挙がった。有名企業やＪＡとコラボして開発すべきだという意見もみられた。

「自然や歴史文化をＰＲする」は 32%。1 円電車、氷ノ山、大屋の大櫻、天滝などの具体例がみられ、また、“入れる森を多くする”、“神社をパワースポットに”、“現時点で有名な観光地とそうでない場所が連携して相乗効果がえられるような企画をつくる”などの意見がみられた。

「観光の魅力をＰＲする」25%。ＳＮＳやネットでの発信、やっぷーをテレビに出していく、作家にここを舞台に小説を書いてもらう、などの意見があった。

「農業の面白さをＰＲする」21%。“農業体験”の機会を増やす提案が多くみられた。

そのほか、「偉人をＰＲ」するために、小学校で教えるという意見があった。

「芸術活動をＰＲ」するために、大屋アート村のＰＲ、文科系同好会の活躍の場を増やす、写真家や画家の大会を開く、自然と芸術というイメージを大切にするなどの意見があった。

「都市部にアンテナショップをつくる」では、それを大阪につくり 2 時間で行けることをアピールするなどの意見があった。

問13 但馬地域の知名度をあげるためのアイデア...（ＭＡ）

No.	カテゴリー名	n	%
1	自然や歴史文化をＰＲする	99	31.7
2	偉人をＰＲする	20	6.4
3	特産品をブランド化する	100	32.1
4	観光の魅力をＰＲする	79	25.3
5	商工業の分野で特色をだす	22	7.1
6	農業の面白さをＰＲする	66	21.2
7	芸術活動をＰＲする	20	6.4
8	ユニークな政策を実施する	40	12.8
9	都市部にアンテナショップをつくる	36	11.5
10	その他	8	2.6
11	無回答	106	34.0
	全体	312	100.0

但馬地域が知名度をあげるアイデアについて具体的な記述

問13-1 自然や歴史文化をＰＲする	
	現時点で有名な観光地とあまり有名でない場所が連けいして、相乗効果をあらえるようなきかくをつくる。
	田舎に住みたい人に、但馬の緑豊かな自然をアピールする
	安全かつきれいな自然を保ち、ミズバショウとかを増やす
	入れる森を多くする
	神社をパワースポットにする
	1円電車をアピール、鉄道好きを集める
	大屋の大櫻、天滝
	竹田城
	氷ノ山をPRする
	PRの方法としてCMを作り、外国人版も作る
	テレビの取材をお願いする
	行事を通して自然をPR
	テレビや雑誌などで紹介してもらう
	ネットやSNSを使ってアピールする
	宣伝する
	PV作製
	ドラマのロケ地に
	あまりなし
	分からない

問13-2 偉人をＰＲする	
	上垣守園
	池田草庵
	野々村
	おさかべはじめ
	握手会をひらく
	但馬出身の有名人
	小学校で教える
	分からない

問13-3 特産品をブランド化する	
	キノコ
	八鹿豚とかあとお米
	竹田城周辺
	そば、しょうちゅう
	品種改良
	但馬牛
	さんしょう
	但馬牛
	やっぷーをもっとPR
	但農とコラボしてブランド商品を作る
	カニ、但馬牛などをもっと売り込む
	B級グルメの増加
	都市部で売る
	有名企業とコラボする
	テレビに取り上げてもらう
	ビラをはりまくる
	知らん
	分からない
	なし

問13-4 観光の魅力をＰＲする	
	天滝
	竹田城周辺
	竹田城の魅力をアピールしていく
	竹田城
	竹田城
	七花寺の知名度を上げるなど地元だけしかないものをPRする
	氷ノ山以外の観光地を作るor見つける
	やっぷー
	やっぷーをテレビに出していく
	山奥の宿で…もし温泉がでれば…
	訪れたいと思う場所をつくる
	都市部にもっと売り込む（駅に広告をつけるなど）
	作家にここを舞台に小説を書いてもらう
	ネットなど多くの人に発信する
	SNSなどで紹介する
	TVに出るぐらい有名にする
	テレビに出てみる
	観光客向けの施設を増やす
	分からない

問13-5 商工業の分野で特色をだす	
	岩津ねぎ
	ショッピングモールを建てること。
	分からない

問13-6 農業の面白さをＰＲする	
	コンバイン楽しい（白目
	農業にとり組み楽しいことなど
	分からない
	都市部では体験できない農業体験プログラム
	農業体験
	農業体験
	農業体験できる機会をつくる
	農業特区という特別なことを生かした活動をする
	農業体験を増やす
	宣伝する。
	テレビに出演する
	農業体験を積極的にする。
	そのままそのまま

③この地域が“みなさんの理想のまち”になるための意見や提案

55 名より 66 件の意見や提案があった。

最も多かった意見は、「店を増やす」13 件で都会にあるような店を増やして若者を呼ぶ提案、次に「政策関連」が 10 件で市の方針に対する提案、「自然を活かす」「施設関連」の提案がそれぞれ４件ずつあった。また、高校生らしいユニークなアイデアもいくつか提案された。「この地域が大好き」「がんばろう」等、意思の理想の意見が６件、「充分このままでよい」という意見も５件あった。

１件、熱心な素晴らしい意見があったので記載された記述のまま紹介する。

私は子供たち、若い世代を大切にし、尊重する地域を理想とします。「これだから若いやつは…」という言葉を「さすが若者!!」という言葉にできたら素敵だと思います。学歴だけでははかりきれないような可能性を秘めている子供も多くいます。「ウチの子は他の子と違う。」このことを自慢に思えるような環境に憧れます。決して悪い意味で言っているわけではありません。個性を自然の中に開放し、「私って、こうやって生きてるんだ!!」と実感できるような機会が作れたら…そんな風に思わせてあげられる大人がいれば・・・・と思います。子供たちのアイデンティティの形成を手伝える人間が必要だと思います。また、障害を持った方々の就労支援が全国でも上位だと聞きました。とても誇らしいことだなと思い感動しました。ぜひ続けていってもらいたいです。

“みなさんの理想のまち”になるための自由記述

大分類	件数	主な意見内容	件数
店を増やす	13	都会にあるような店を増やす	3
		都会にあるような店を増やす（会社を増やしたり、その町自体が需要があるようにすれば良い）	1
		都会にあるような店を増やす（喫茶店など気軽に入れるお店）	1
		都会にあるような店を増やす（ショッピングモールを今以上に良いものにする）	1
		店やデパートを増やす（例：ジャスコやアイティやコープ）	1
		子供からおとしよりまでが楽しめる店をつくる	1
		若者受けする店を増やす	1
		店を増す	2
		街の活性化	1
		何もないから都会に皆行ってしまう	1
政策関連	10	若い人が戻ってこれる環境をつくるべき	1
		農業特区を生かすべき	1
		障害者への就労支援が全国でも上位という取組の継続	1
		思い切った政策をする	1
		市の借金を減らす	1
		自然がいっぱいあるECOな町をめざす	1
		理想は若い世代を大切にし尊重する地域	1
		子供が安心してくらせる町になってほしい	1
		企業の発展	1
		もう少し働く場所がほしい	1
自然を活かす	4	農業関連のものを利用する	1
		自然環境を大切にする	1
		山を活かした農作物の生産	1
		自然のすばらしさを教える	1
施設関連	4	本当に必要な施設のみ建てれば良い	1
		図書館などの皆が利用できる場の充実	1
		家族で楽しめる所を作る	1
		既存の施設を利用する	1
グローバル化	2	外国人が住みやすい環境をつくるべき	1
		外国語を取得できるような施設を増やす	1
医療施設の充実	2	八鹿病院は、本来の2割程度の能力しか発揮していない	1
		医療設備を充実させる	1
交通の便を良くする	2	交通機関を便利にする・移動手段をよくする	2
アイデア	6	ナイナイのお見合いを養父市で開催し成立したカップルに来てもらう	1
		高校生が世間が驚くような何かに自主的に取り組み有名にする(例：高校生レストランなど)	1
		ライブ会場を設けて人を呼ぶ	1
		誰とでも子作りをする	1
		兵庫を野々村だらけにする	1
		日本の首都にする	1
市民の意識	6	笑顔で話しかけてくる地域が大好き	1
		地域の人がもっと外部からの人を受け入れる姿勢になるべき	1
		人をののしらない町、いじめゼロ、人がいい町	1
		この地域を“皆さんの理想のまち”と思い込む	1
		がんばろう	1
		皆に愛される町になってほしい	1
充分このままでもいい	5	充分このままでもいい	3
		今の状態を壊してまで全国で有名になる必要はない	1
		充分このままでもいい（下手に人口を増やしても責任がとれない）	1
特になし	11	特になし	11
わからない	1	わからない	1
総計	66		